

へき地保健医療対策検討会

厚生労働科学研究補助金事業

平成22～23年度

「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研究」

平成24～25年度

「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」

自治医科大学地域医療学センター—地域医療学部門

森田喜紀

研究班

【研究代表者】

梶井英治 自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授

【研究分担者】

前田隆浩 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療学講座教授

谷 憲治 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
総合診療医学分野教授

井口清太郎 新潟大学大学院医歯学総合研究科
総合地域医療学講座特任教授

今道英秋 自治医科大学救急医学

澤田 努 高知医療センター地域医療科科長

神田健史 自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門

森田喜紀 自治医科大学地域医療学センター総合診療部門

【研究協力者】

中澤勇一 信州大学医学部地域医療推進学講座准教授

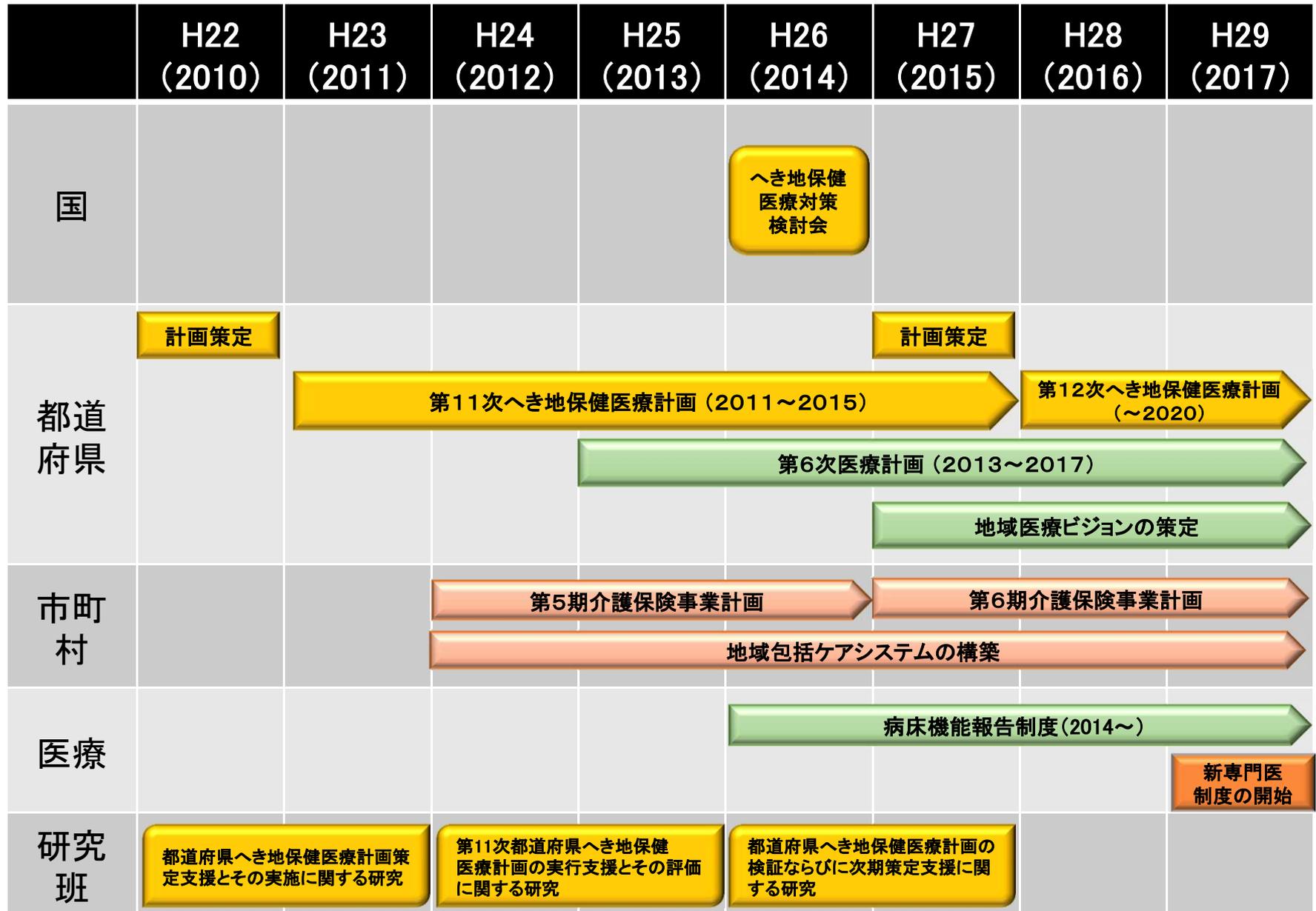
角町正勝 社団法人日本歯科医師会前理事

瀬川正昭 徳島文理大学薬学部教授

春山早苗 自治医科大学看護学部地域看護学教授

古城隆雄 自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門

全体の流れ



平成22～23年度 「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研究」

都道府県個別訪問

全国へき地医療支援
機構等連絡会議

手法の評価

実施1年目

・ H23～第11次

実施2年目

都道府県個別訪問

全国へき地医療支援
機構等連絡会議

へき地を中心とした
地域医療分析

へき地保健医療
計画策定

継続的改善

Action

Check

Plan

Check

Do

実施3年目

【目的】

第11次へき地保健医療計画策定年度である平成22年度より、都道府県の**第11次へき地保健医療計画の策定支援**を行う。

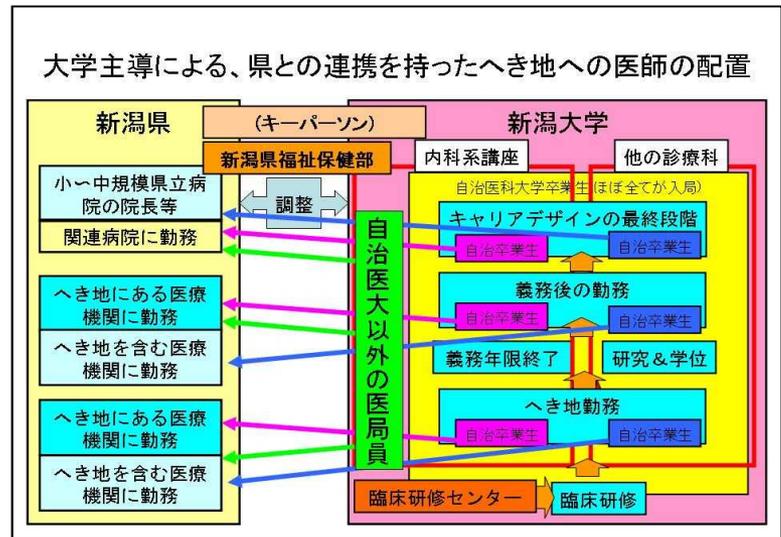
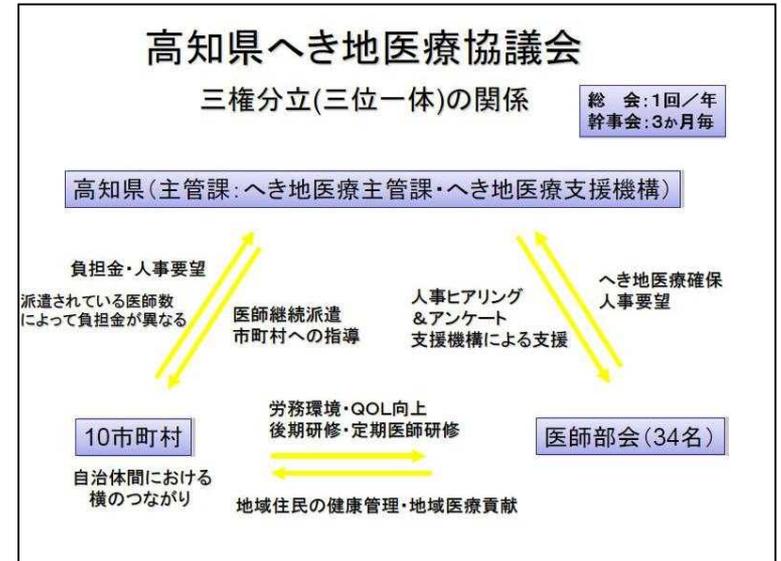
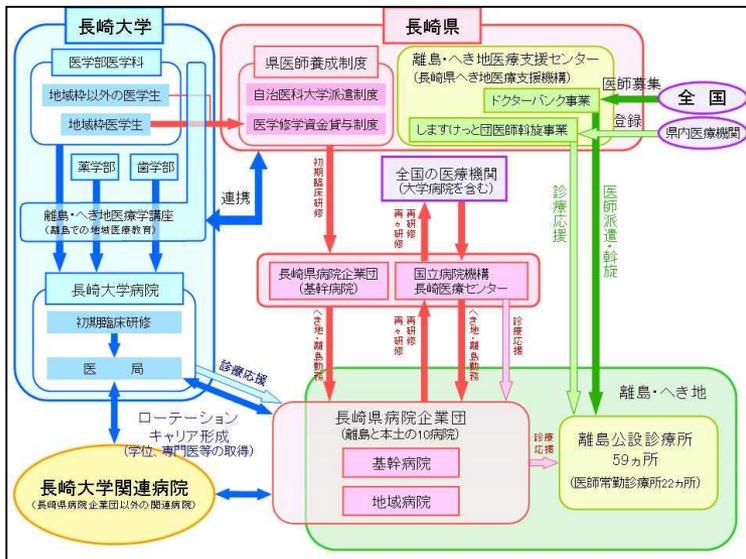
へき地保健医療対策検討会

- ・第9次:へき地医療支援機構・専任担当官
- ・第10次:都道府県ごとの策定(国が指針)
- ・第11次:へき地医療支援機構等連絡会議

「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研究」 ～先進的なへき地保健医療対策の取組事例の検討～

【へき地に勤務する医師のキャリアパスについて】

- 既存のシステムからの発展
- 組織・団体間等の協働
- 医師が帰属出来る場所
- それを維持できる構造



「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研究」
～へき地を中心とした地域医療分析等の調査～

- 気付きと行動を促すための全115項目（回収率100%）
 - へき地医療支援機構の機能強化に関わること
 - へき地医療への動機付けとキャリアデザイン
 - 総合医の育成に関わること
 - 地域枠選抜出身医師や自治医科大学卒業医師の活用方法等に関わること
 - 地域医療・へき地医療に関する教育に関わること
 - へき地医療拠点病院に対する支援に関わること
 - ITによる診療支援に関わること
 - ドクターヘリの活用に関わること
 - 歯科医療、看護職等への支援方策に関わること
- へき地保健医療計画策定指針にも盛り込まれ、
都道府県の計画策定時の調査に反映

「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研究」 ～全国へき地医療支援機構等連絡会議の支援～

研究班がグループワークのファシリテーターを担い下記のテーマについて行った。

都道府県間の意見交換
課題の論理的掘り下げ

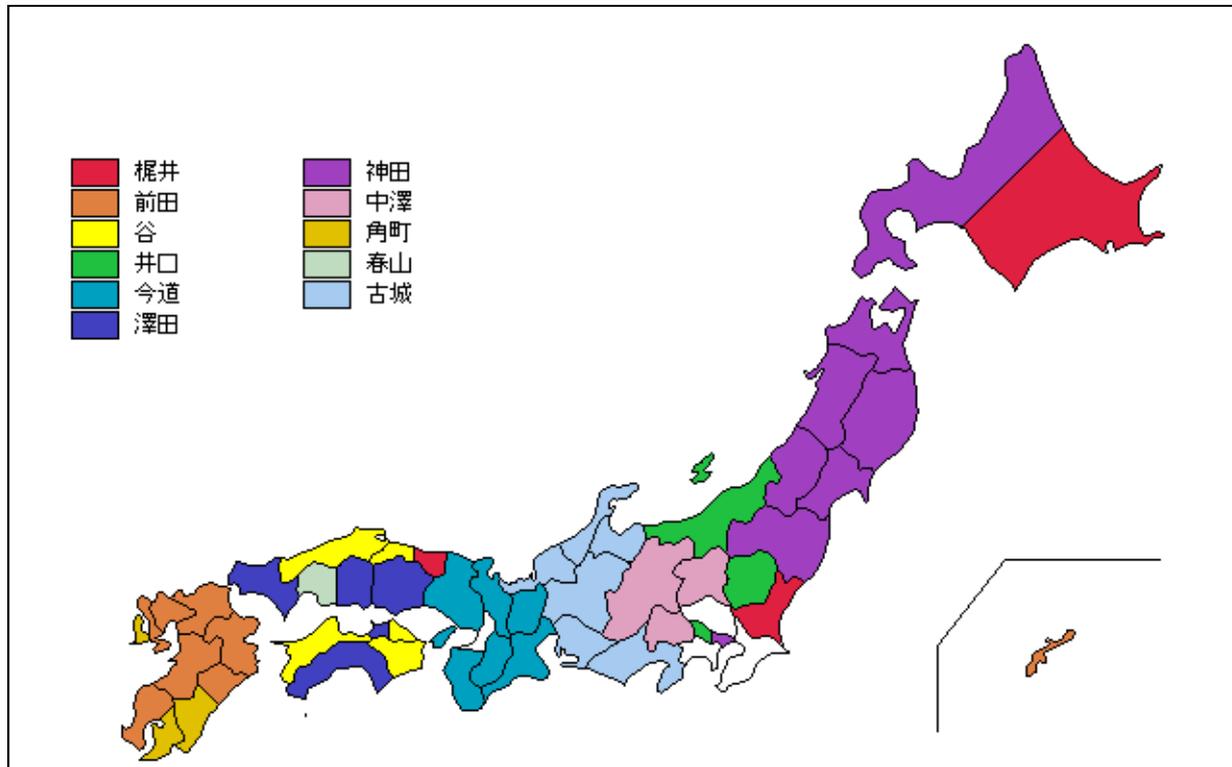
第1回:PDCAサイクルの理解

第2回:改善案の見直し

第3回:テーマに沿ったディスカッション



「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研究」 ～都道府県個別訪問による技術的支援(H22)～

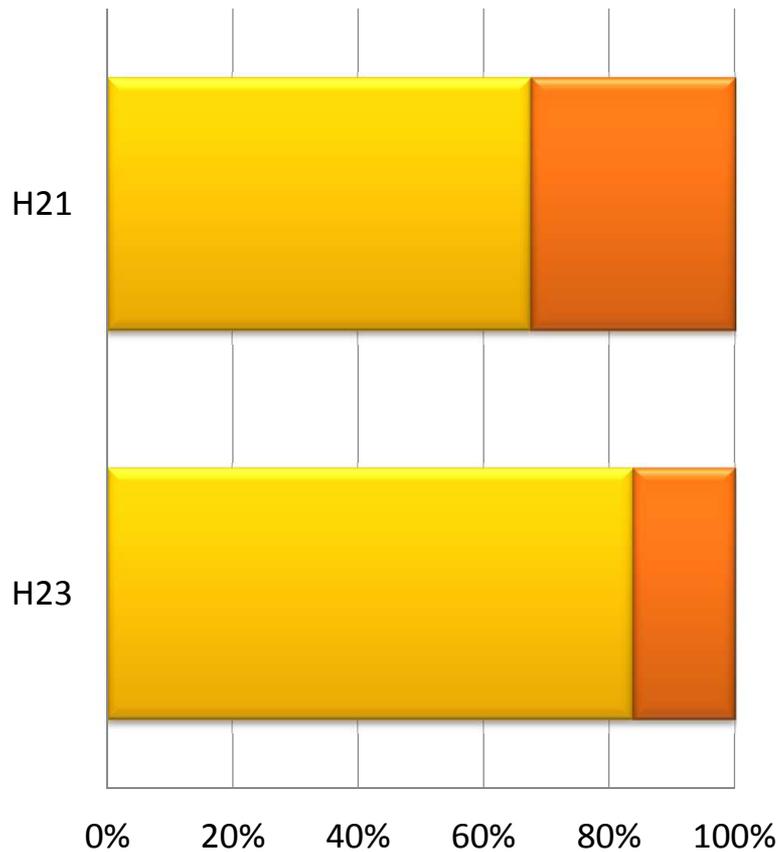


- 研究班メンバー1～2人で都道府県を訪問
- へき地保健医療計画担当者等と約2時間面談
- 国のへき地保健医療計画策定指針に則った確認項目
(へき地医療支援機構の役割強化、専任担当官の機能強化など)

「都道府県へき地保健医療計画策定支援とその実施に関する研究」 ～活動による変化～

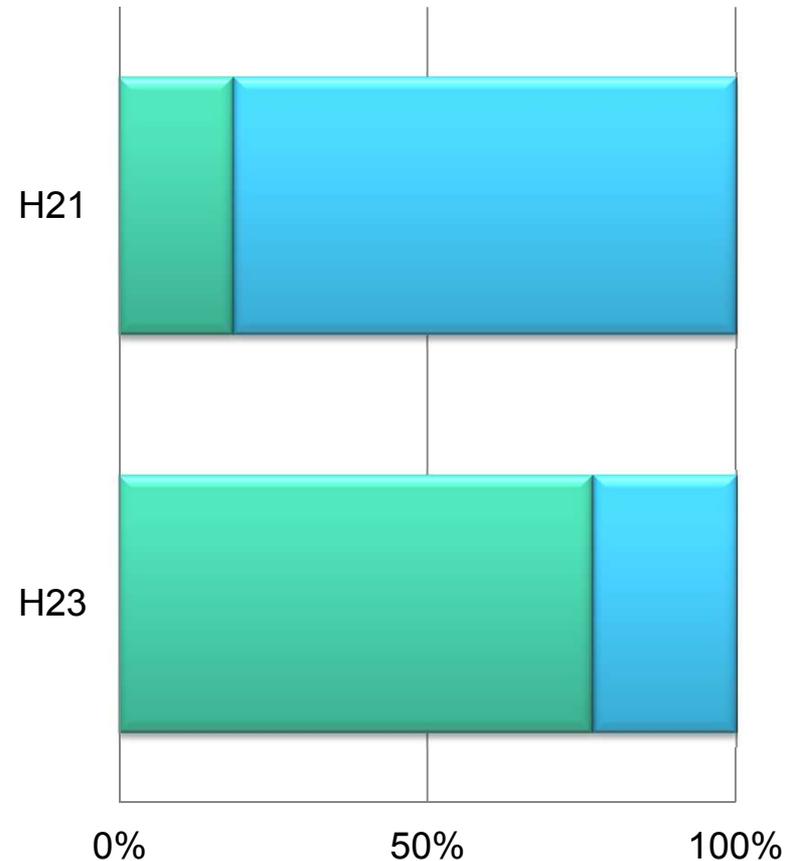
へき地保健医療計画

■ 策定あり ■ 策定なし



へき地保健医療対策協議会

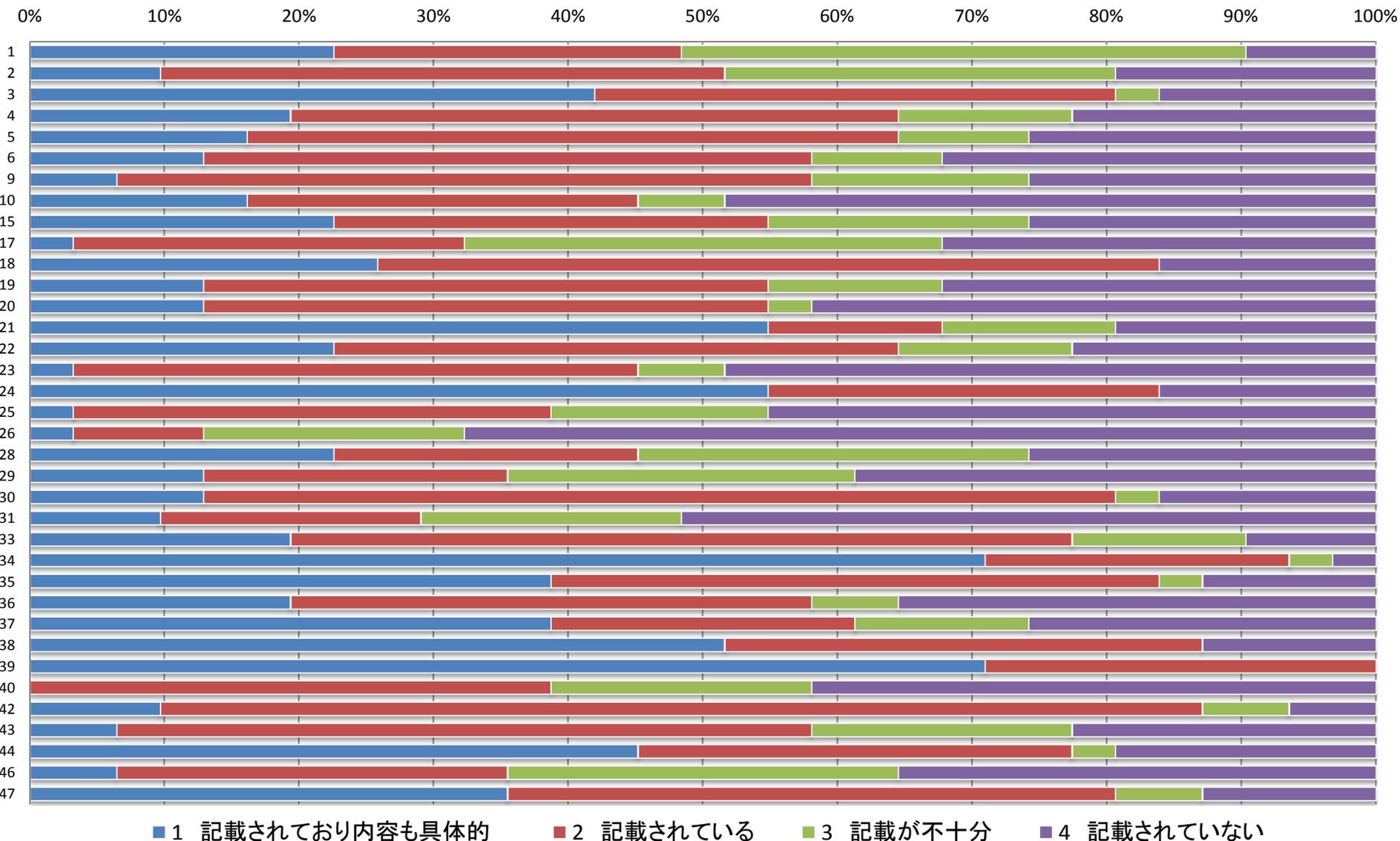
■ 開催あり ■ 開催なし



計画の策定は29から36都道府県に増加

協議会の開催は8から33都道府県に増加

～第11次都道府県へき地保健医療計画についての評価～



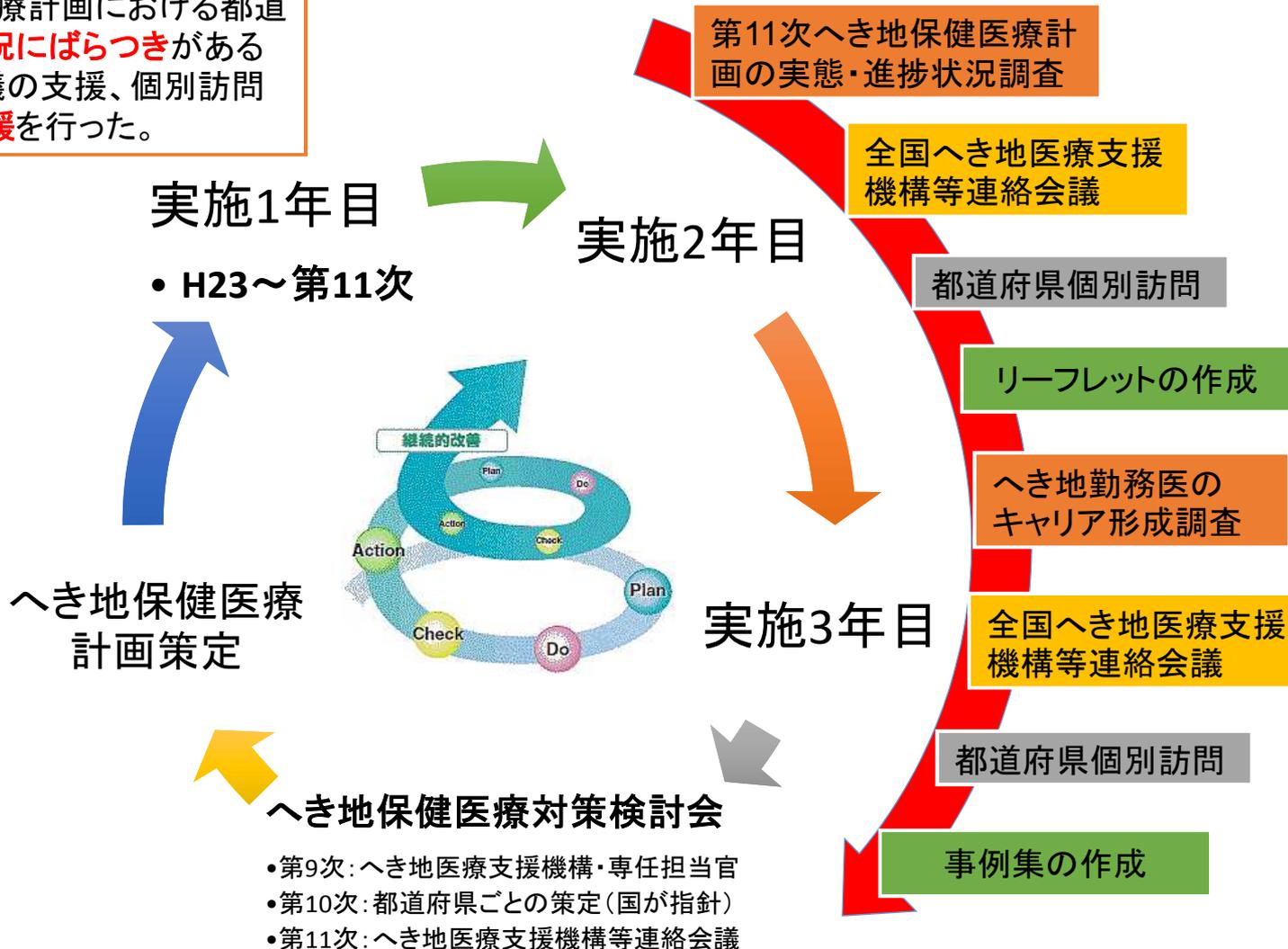
都道府県による計画の記載内容にはバラつきが大きい

平成24～25年度

「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」

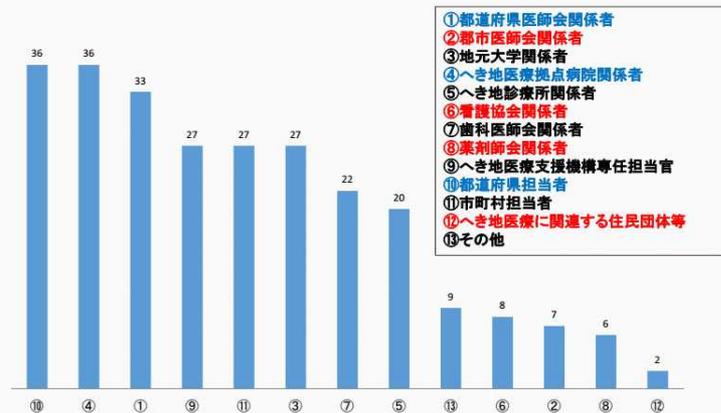
【目的】

第11次へき地保健医療計画における都道府県の**策定・取組状況にばらつき**があるため、調査、連絡会議の支援、個別訪問にて、**計画の実行支援**を行った。

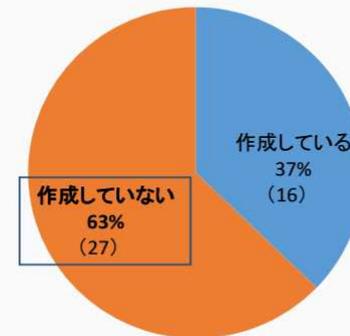


～都道府県第11次へき地保健医療計画の進捗状況調査 集計結果～

へき地保健医療対策に関する協議会の参加者



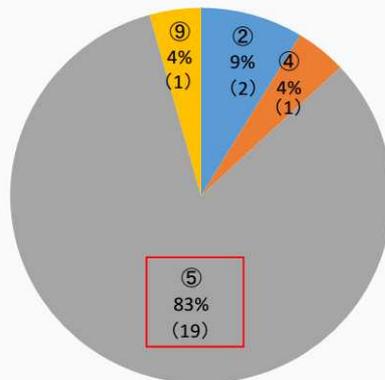
へき地医療に従事する医師のキャリアデザインを都道府県や医療機関等が作成しているか



注) 自治医大卒業の義務年限医師のキャリアデザインも含まれている

最も重点を置いている地域医療支援センターの役割

* 地域医療支援センターとは？

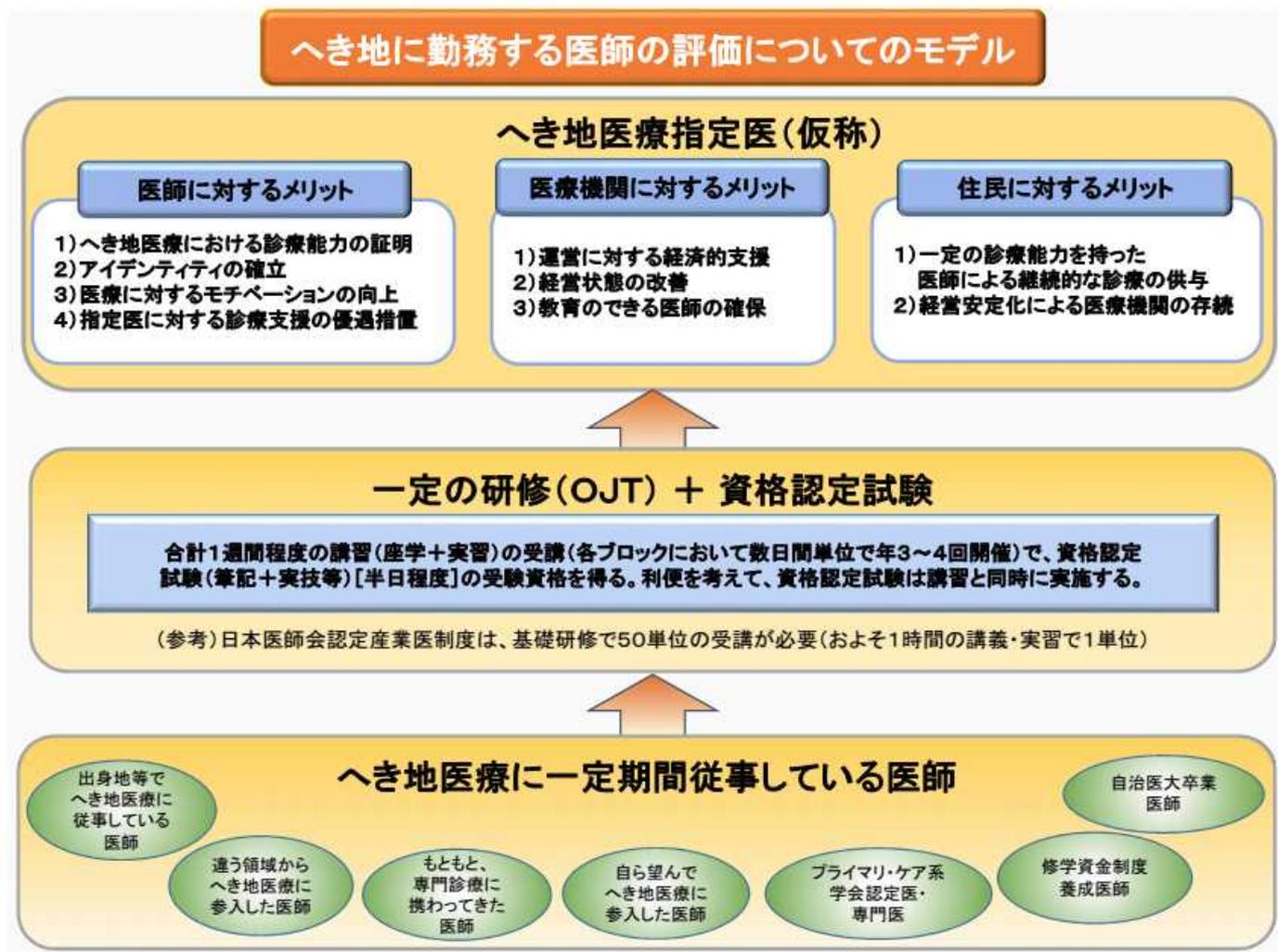


- ① 医師確保に関わる総合相談窓口の設置
- ② 医師のあっせん・派遣調整
- ③ 医師確保対策に関する情報発信
- ④ 地域医療に従事する医師の支援
- ⑤ 奨学金等により将来地域で就業することを義務付けられている医師のキャリア形成支援
- ⑥ 地域における指導医の養成と指導医の適正な配置
- ⑦ 地域での研修体制整備
- ⑧ 地域医療関係者との意見調整
- ⑨ 具体的な役割に関しては検討中

- ・ **看護協会、薬剤師会、そして住民団体が協議会に参加している協議会も少数ながら見られた。**
- ・ **およそ6割の都道府県でへき地医療に従事する医師のキャリアデザインは未作成であった。**
- ・ **地域医療支援センターには地域枠のキャリアデザインの作成が期待されていた。**

その他、ドクタープール・へき地医療への動機づけ、へき地保健医療計画に住民・患者の視点を反映させるための方策、へき地看護・へき地歯科医療について、取組状況などの調査を行った。

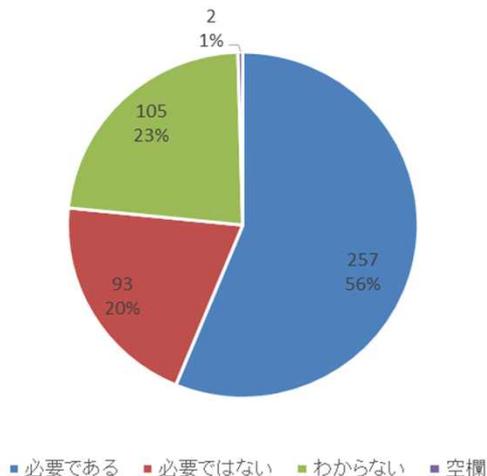
「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」 ～へき地に勤務する医師を評価するモデル「へき地医療指定医(仮称)」に関するアンケート調査～



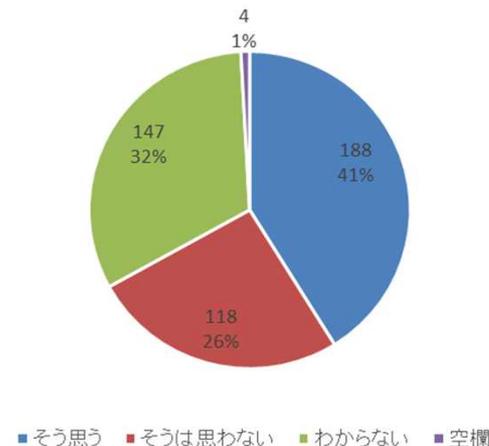
調査対象: へき地診療所に勤務する医師(回収率 42.2%)

へき地に勤務する医師を評価するモデル「へき地医療指定医(仮称)」に関するアンケート調査 ～集計結果(一部)～

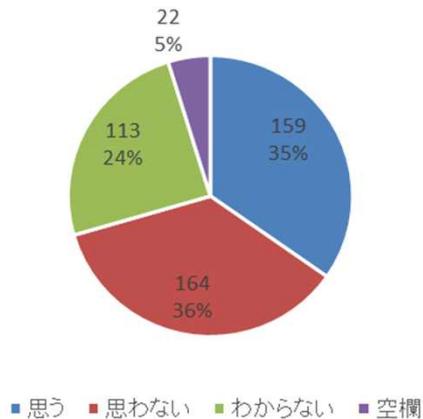
問1. へき地に勤務する医師を評価する必要性(N=457)



問3. へき地に勤務する医師の評価についてのモデルの有効性 (N=457)



問5. へき地に勤務する医師評価についてのモデルへの参加
(資格を取得したいと思うか) (N=458)



【へき地に勤務する医師を評価する必要性】

へき地で勤務したことを評価することについては**肯定的な意見が半数**を占め、本モデルの有効性を評価する意見も多かったが、実際に参加すると回答した意見は少なかった。

そして、長くへき地で診療を行っている医師と比べると、**若手の医師の方がへき地に勤務したことを評価されるシステムを望んでいる傾向**にあった。

一方で、資格や認定がへき地医療への参入障壁を上げてしまうことへの危惧や、**診療・生活環境の改善**の方が医師確保に有効であるといった意見も見られた。

「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」 ～全国へき地医療支援機構等連絡会議 グループワーク～

【平成24年度(第4回)のテーマ】

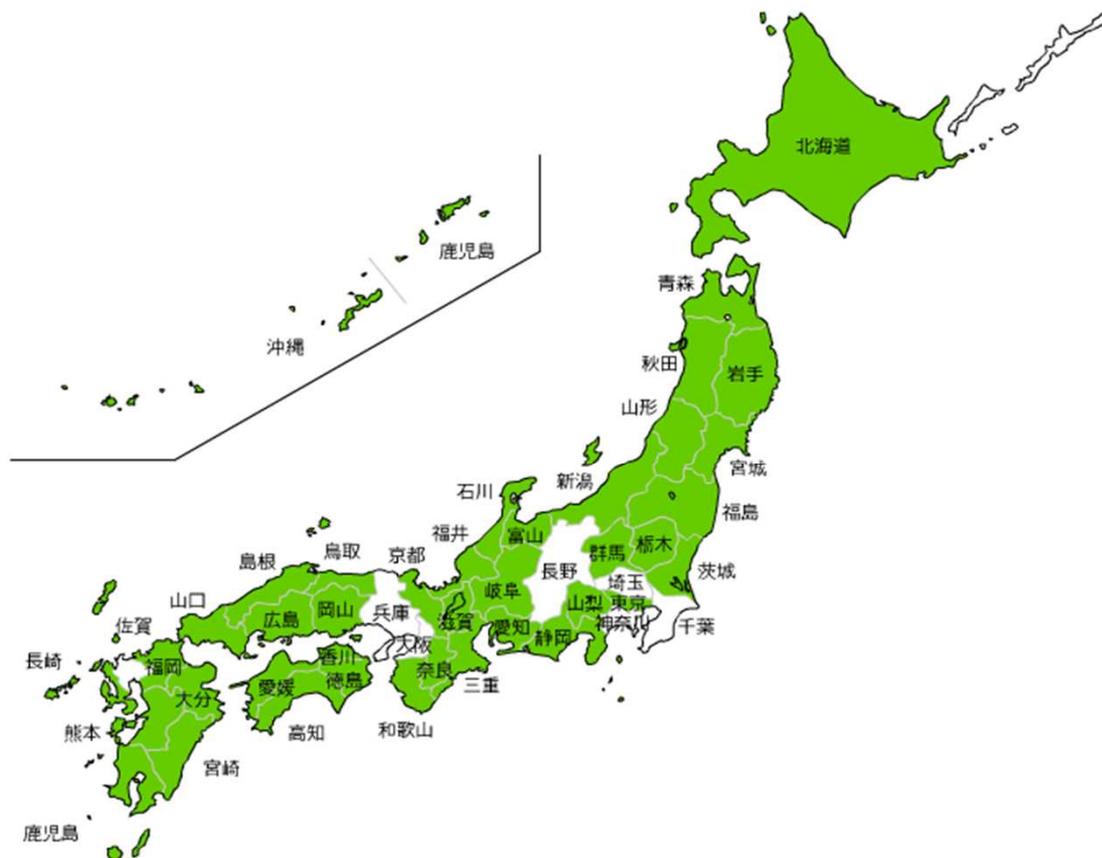
- ①へき地医療を担う医療従事者を確保するためのドクタープールや、へき地医療への動機づけ
- ②へき地医療従事者を育成するための研修プログラムやキャリアデザイン
- ③へき地医療支援機構の役割・機能の充実と地域医療支援センターとの連携
- ④第11次へき地保健医療計画の実行におけるへき地保健医療対策に関する協議会の活用
- ⑤へき地医療を支援するためのへき地医療拠点病院の代診医派遣・看護師派遣等の取組
- ⑥へき地保健医療計画に住民・患者の視点を反映させるための具体的方策

【平成25年度(第5回)のテーマ】

- ①へき地保健医療対策に関する協議会の活用について
- ②へき地看護の充実に向けて
- ③へき地歯科医療の充実に向けて
- ④へき地での薬剤師の役割について



「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」 ～平成24年度 都道府県個別訪問による技術的助言～



- ・研究班が都道府県庁(40/43)を訪問、へき地医療行政担当者と面談。
- ・第4回連絡会議で取上げたテーマを基に、技術的助言や情報交換を行った。
- ・また、計画の実行にあたっての**促進因子**、**阻害因子**の抽出を行った。

～平成24年度 都道府県個別訪問による技術的助言 まとめ～

- ・医療人材確保のため、小・中学生も対象とした取組
- ・近隣都道府県と合同で開催するへき地医療研究会
- ・地域医療再生機金のソフト事業への活用

- ・地域枠、自治医大卒業医師のキャリアデザイン
- ・後期研修プログラムの作成と活用
- ・総合診療医、各科専門医の育成と確保
- ・へき地医療支援機構と地域医療支援センターの連携

- ・住民に対する地域医療に関する情報発信
- ・市町村と連携した住民団体などの支援
- ・フォーラムやシンポジウムの開催

へき地保健医療の充実

取組共有

課題への解決策の『新たな気づき』

様々な課題

- ・へき地看護、歯科医療
- ・都道府県境の医療

医療者育成

地域に求められる『医療者の輩出』

診療機能の低下

- ・医師不足による拠点病院の機能不全
- ・専門医志向による地域医療の人材難

住民視点

地域医療を契機とした『地域の活性化』

へき地特有の課題

人口減少や高齢化による生活基盤の低下
交通の利便性が良い地域との医療格差の拡大

行政

大学

へき地保健医療
対策に関する協議会

医療機関

医師会

『対話と協働』
顔が見える間柄
問題意識の共有

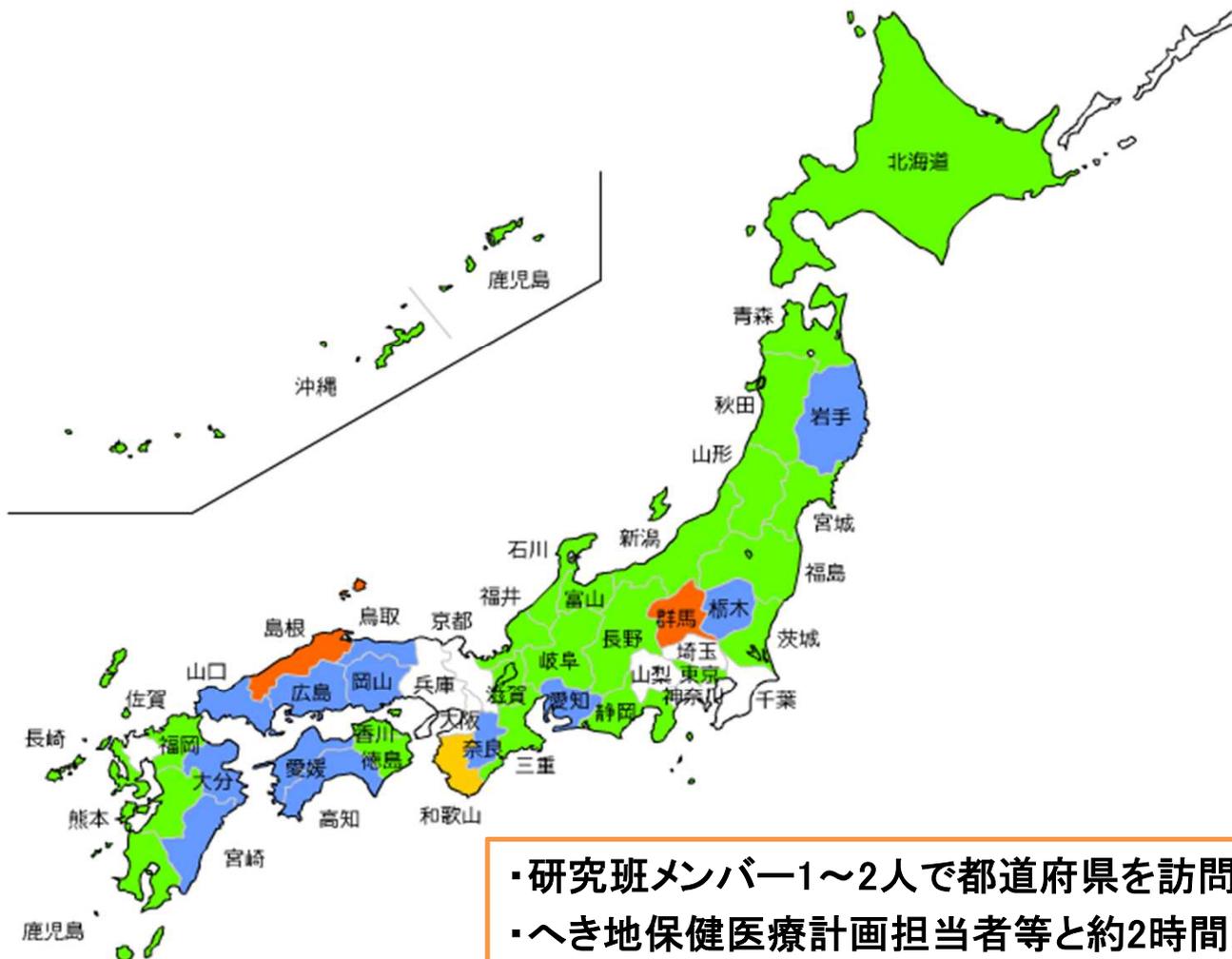
関係者全体の連携不足

- ・関係者が一同に会する場がない
- ・各地域全体を見据えたシステムが無い

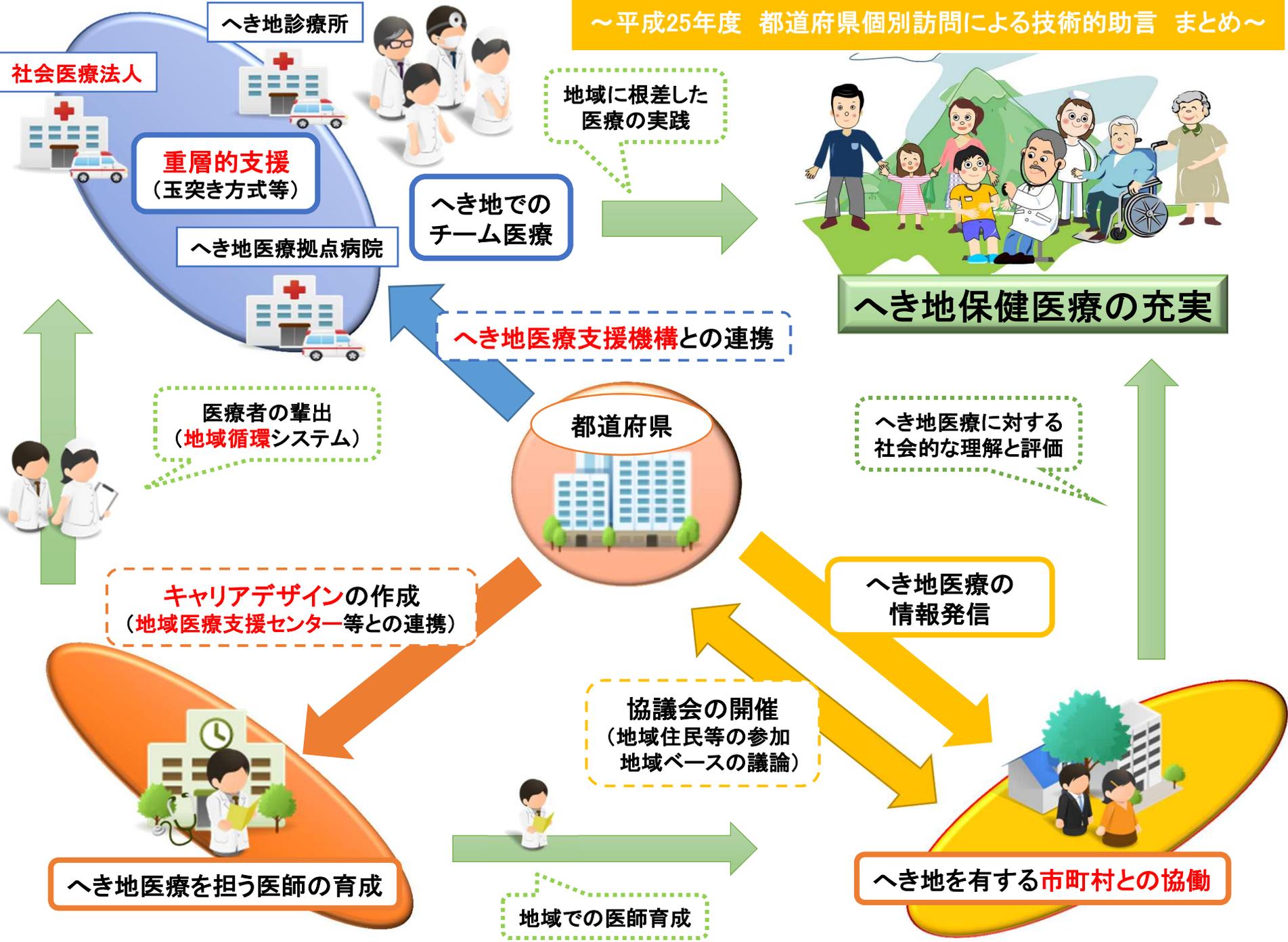
「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」 ～平成25年度 都道府県個別訪問による技術的助言～

訪問先など

- 都道府県庁
- 医療機関
- 大学
- 厚労省担当者との訪問



- ・研究班メンバー1～2人で都道府県を訪問
- ・へき地保健医療計画担当者等と約2時間面談
- ・都道府県庁以外も訪問対象とした(15/39)
- ・昨年度の促進・阻害因子を中心とした助言等



へき地診療所

社会医療法人

重層的支援
(玉突き方式等)

へき地医療拠点病院

へき地での
チーム医療

地域に根差した
医療の実践

へき地保健医療の充実

へき地医療支援機構との連携

都道府県

へき地医療に対する
社会的な理解と評価

キャリアデザインの作成
(地域医療支援センター等との連携)

へき地医療の
情報発信

協議会の開催
(地域住民等の参加
地域ベースの議論)

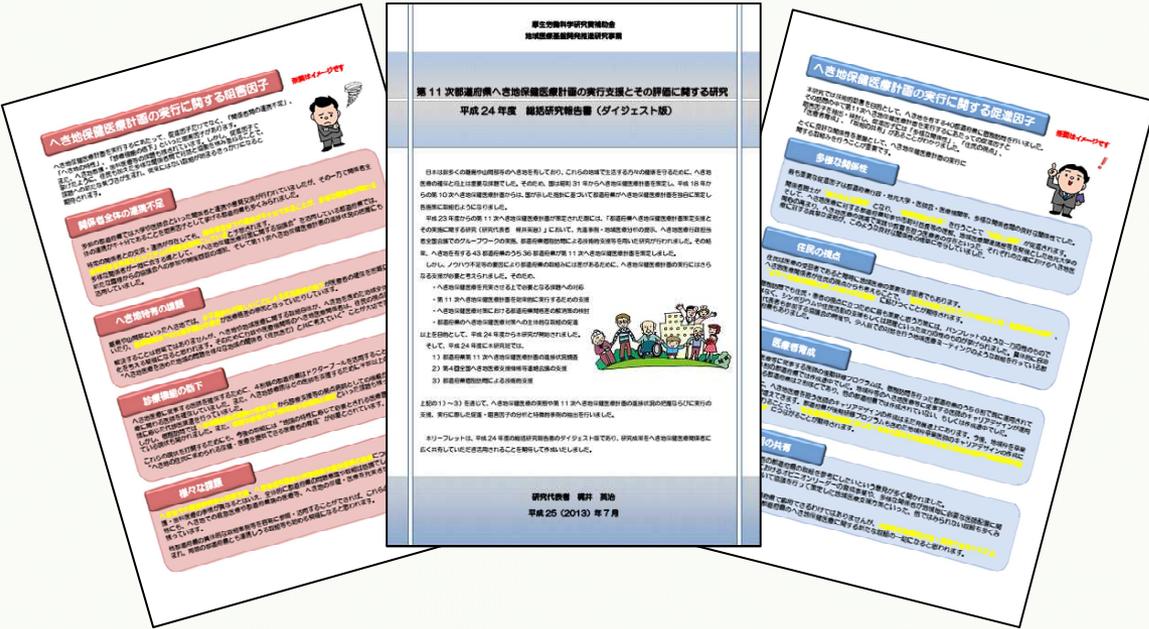
へき地を有する市町村との協働

へき地医療を担う医師の育成

地域での医師育成

医療者の輩出
(地域循環システム)

「第11次都道府県へき地保健医療計画の実行支援とその評価に関する研究」 ～情報発信 リーフレット・特徴的事例集の作成～



【リーフレット】
平成24年度 総括研究報告書のダイジェスト版。
研究成果を広く活用するために作成した。

【特徴的事例集】
個別訪問で収集した取組事例の資料を
へき地医療担当者で共有できるように作成した。

平成22年度～25年度 研究班活動のまとめ ～都道府県の取組における変化 ①～

【計画の策定】

- ・へき地保健医療対策に関する協議会を開催した都道府県の増加
- ・第11次へき地保健医療計画を策定した都道府県の増加

【計画の実行（平成24・25年度の都道府県個別訪問で確認）】

- ・へき地保健医療対策に関する協議会の活用：21→25都道府県が十分に活用
（例）協議会にて、へき地保健医療計画の進捗状況の把握を行っている
- ・へき地医療支援機構の活用
（例）へき地医療支援機構の環境整備と専任担当官の業務支援により、前年度と比較してへき地保健医療対策の進展が見られた
- ・へき地診療のバックアップ体制
（例）24都道府県でへき地医療拠点病院以外の基幹病院と連携
12都道府県で社会医療法人と連携
5都道府県で「玉突き方式」での診療支援
* 玉突き方式：へき地医療拠点病院→基幹病院→へき地診療所等

平成22年度～25年度 研究班活動のまとめ ～都道府県の取組における変化 ②～

【計画の実行(平成24・25年度の都道府県個別訪問で確認)】

- ・へき地医療を担う医師のキャリアデザイン作成
(例)地域卒卒業医師 9都道府県で作成 25都道府県で作成中
自治医大卒業医師 22都道府県で作成 11都道府県で作成中
- ・へき地医療に関するイメージ戦略:9割の都道府県で実施されている
(例)16都道府県では、へき地医療に特化したイメージ戦略が実施
- ・へき地看護・歯科医療への取組
(例)へき地看護では8都道府県、へき地歯科医療では7都道府県が平成25年度の連絡会議グループワークを基に改善を検討。
医師確保と連動した都道府県の取組
- ・全国へき地医療支援機構等連絡会議:都道府県間の繋がり
(例)特徴的な取組事例を通じた情報共有や問題意識の共有
- ・都道府県個別訪問:多様な関係者による検討
(例)研究班と行政担当者による、へき地医療拠点病院の訪問
現場を交えた意見交換・情報共有への展開

平成22年度～25年度 研究班活動のまとめ

～課題～

【課題】

・市町村との協働

→へき地における医療需要の将来推計に基づいた医療提供体制の構築
都道府県、市町村行政、医療者、住民による医療提供体制に関する協議

・へき地医療拠点病院の役割

→診療機能に加えた教育機能の評価
へき地要件での社会医療法人との連携

・人材育成

→自治医大卒業医師、地域枠卒業医師のキャリアデザイン(育成と配置)
現在、へき地診療に従事する医療者の支援

・へき地看護

→潜在看護師、復職支援、新人看護師の臨床研修

・へき地歯科医療

→口腔保健支援センター、へき地における在宅歯科医療

・ICTの導入

→ITによる診療支援(現状把握、具体的取組のピックアップ)